

事業概要	<ul style="list-style-type: none">・使用済み自動車の収集・分解・適正処理・中古部品の販売・輸出及び中古車の販売・輸出・鉄スクラップ・非鉄スクラップ製造販売・樹脂・ガラス等リサイクル原料の回収・販売・自動車の処理及び再利用のための実証研究等の受託
部署	営業・業務・生産
所在地	〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町一丁目62番
連絡先	(電話番号)093-752-509 (E-mail)kugimiya@warc.co.jp
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	リサイクル企業が集積する再生可能エネルギー供給基地を特徴とする北九州エコタウンの地の利を活かし、車の進化に応じた環境にやさしい自動車リサイクルに取り組み、地域の動静脈企業連携による車から車への資源再利用を通じて天然資源の持続可能な利用及び廃棄物の発生を削減する資源循環社会を実現したい。

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション	分野	脱炭素／サーキュラーエコノミー／その他(人材育成)
		<p>①車から車への資源再利用を目指した環境にやさしい高度なりサイクル シュレッターダストを発生させない全部再資源化法により質の高い素材回収を行い、車から車への鉄や樹脂等のリサイクルを可能とすることにより、資源循環やエネルギー消費抑制によるサーキュラーエコノミーの形成に貢献する。</p> <p>②車の進化に応じた自動車リサイクル部品の製造及び、販売 特定整備技術に基づく次世代自動車のリサイクル部品の製造及び販売を通じて、リユースによる廃棄物の発生抑制とエネルギー消費抑制、CO₂排出削減効果をもたらすサーキュラーエコノミーの形成に貢献する。</p> <p>③自動車のリユース・リサイクルによる環境負荷低減について一般の理解を高める 北九州エコタウンは学生や一般者の環境への関心を高める事を一機能としており、西日本オートリサイクル(株)は自動車の見学工場となっていることから、自動車のリユース・リサイクルによる環境負荷低減について一般者の理解を高めることに貢献できる。</p>
	URL	http://www.warc.co.jp
上記ソリューションを提供できる地域について		北部九州、福岡県、北九州市

自者の特徴

1. シュレッダーダストを発生させない全部再資源化法を開発及び実施し、手バラシを基本とした精緻解体により車から車への水平リサイクルを目指した資源循環に取り組んでいる
- 1) 西日本オートリサイクル(株)(WARC)のミッション
車から車への資源循環をミッションとし、自動車リサイクル法を遵守した環境にやさしい自動車リサイクルに取り組んで、おり、リサイクル率は99%を達成している。

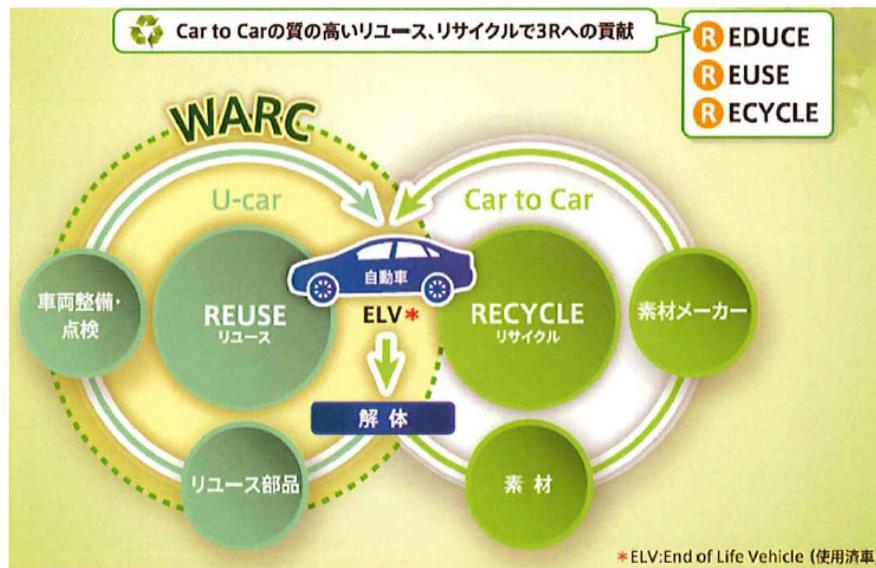


図1. 西日本オートリサイクル(株)のミッション

- 2) 廃車由来の鉄資源の水平リサイクルを実施
日本製鉄株式会社九州製鉄所八幡地区とコンソーシアムを組み、銅含有量の低い鉄プレス屑を製造し、自動車用冷延鋼板の鉄原料として供給している。

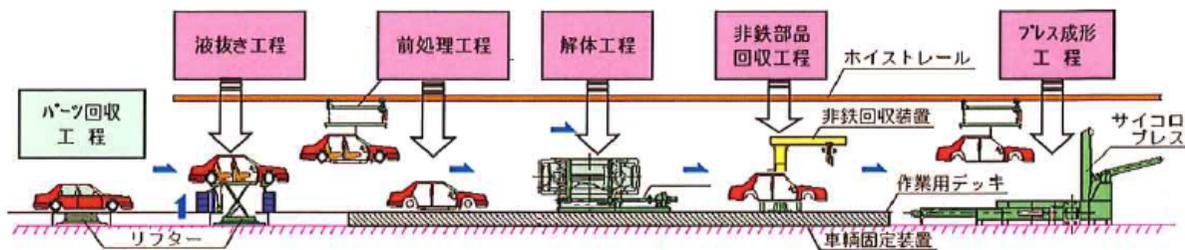


図2. 西日本オートリサイクル(株)の精緻解体プロセス

自者の特徴

3) 廃車由来樹脂の水平リサイクルに取り組んでいる

自動車解体業者や樹脂再生業者が隣接する北九州エコタウンの地の利を活かし、廃車から手バラシでバンパーや内装樹脂を回収し、異材選別と粉碎を行った高品位樹脂を樹脂再生業者に供給し、自動車用樹脂部品原料としての用途開拓に取り組んでいる。

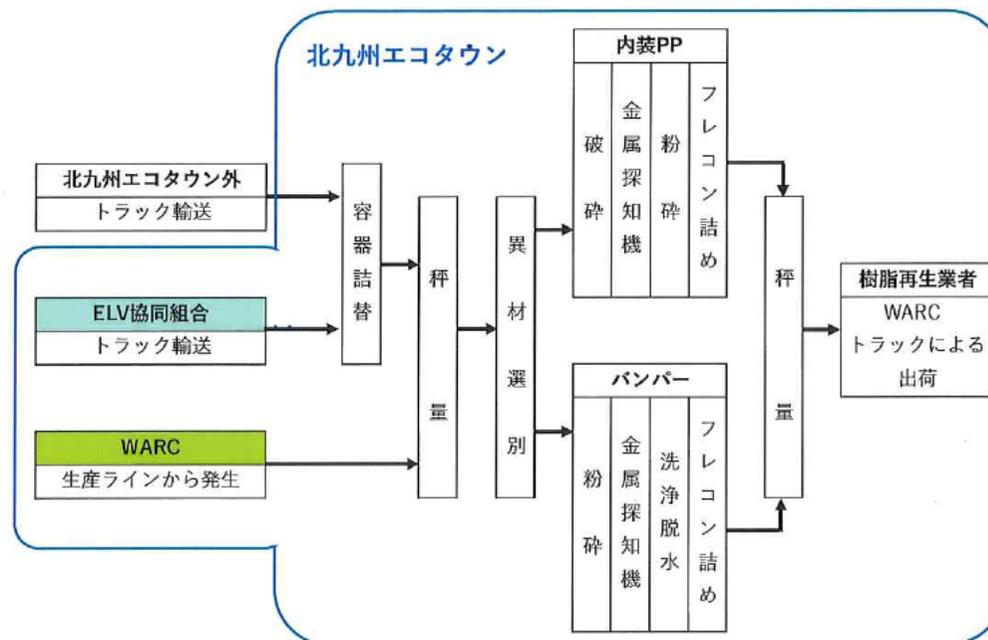


図3. 北九州エコタウン企業連携による廃車由来樹脂リサイクルスキーム

4) 自動車整備技術に基づくりサイクル部品の製造と販売を実施

整備士の視点で品質の良い中古部品を使用済車から選定生産し、あらゆるメーカー及び車種の中古部品を約20,000点取り揃えている。製品はインターネットや当社フロントを通じて「より良い商品をより正確により早く」をモットーにお客様へお届けしている。また、次世代自動車等の車の進化に応じた製品づくりを目指し、特定整備技術の習得にも取り組んでいる。

自者の特徴

5) 地域住民への工場開放及び環境情報の公開を実施している北九州エコタウンの自動車リサイクルについての見学工場となっており、創業以来約12万人の見学者を受入れ、自動車リサイクルと環境に関する理解を高める活動に取り組んでいる。



2. SDGsを経営指針に折込んだ取組みを展開している北九州市SDGsクラブに参加し、図4のSDGs宣言を実施し、環境にやさしい自動車リサイクルを通じた持続可能な循環型社会づくりを目指した取組を展開している。



環境にやさしい自動車リサイクルに取組
持続可能な循環型社会づくりに貢献します

- 使用済車10,000台/年から25,000点/年以上の部品リユースと8,500台/年以上の全部再資源化法による素材リサイクルを行い、CO₂8,000トン/年以上を削減します。
- シュレッダーダスト(ASR)を1,700トン/年以上削減します。

「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」における優先課題

WARCのSDGs 目標と取り組み	
<p>12 責任ある消費と生産</p> <p>○ 弊社の責任に合わせた環境にやさしいシュレッダーレス処理技術を開発し、自動車全体の重量によるCar to Carの資源利用に貢献し、スチール製鋼材の再利用及び廃棄物の発生抑制に貢献し、Advanced Fine-Disrupting Methodの開発</p>	<p>4 質の高い雇用と経済成長</p> <p>○ 優秀な人材を確保するための採用活動の強化と教育の普及を推進させる</p>
<p>9 産業とイノベーション</p> <p>○ CASR等の中核部品リユースに地域企業と連携して取組</p>	<p>13 気候変動への対応</p> <p>○ 環境にやさしい自動車リサイクルを推進しCO₂削減に貢献し、削減実績の把握と改善</p>
<p>7 再生可能エネルギー</p> <p>○ 再生可能エネルギーの活用割合の拡大を推進 ○ エネルギー効率の改善を推進</p>	<p>14 海洋資源の持続可能な開発</p> <p>○ CO₂削減の推進に貢献する船舶の燃料効率向上と大船の削減</p>
<p>8 持続可能な開発のための経済成長</p> <p>○ 持続可能な開発と社会経済成長の両立を推進</p>	<p>17 パートナーシップによる開発</p> <p>○ 持続可能な開発目標を達成して向上を目指すの促進、目標達成の持続可能な開発を推進し、目標達成のための取組に貢献</p>

図4. 西日本オートリサイクル(株)のSDGs宣言

SDGs経営に向けた自
者の課題や悩み

・国内の廃車由来の資源循環が細って来ている

従来ならば使用済みとなっていた低年次車がオークション出品され海外へ輸出されるため、圏内循環にまわる車が減少し資源循環が細って来ている。

・地域連携による資源循環が進んでいない

国内で廃車から回収された資源の流通は市場経済に任されていることから、触媒、銅等は購入価格の高い海外に流出しており、地域の動静脈企業が連携した資源循環が進んでいない。